様式（6）

# 学　位　審　査

| 学　位　番　号 | 乙 第 2866 号 | 氏　　名 | 野口　英一郎 |
|---|---|---|---|
| 審　査　委　員　会 | 主　査　教　授 | 亀岡　信悟 | |

論文審査の要旨（400 字以内）

論文のタイトルは”Clinical significance of hepatocyte growth factor/c-Met expression in the assessment of gastric cancer progression”（胃癌進展度評価における HGF/c-Met 系発現の臨床学的意義の検討）である。【目的】癌の進展をつかさどるメカニズムのうち、原発巣から遊離・浸潤していく上で、重要な因子は細胞の運動能である。その運動性を亢進させる増殖因子のひとつとして hepatocyte growth factor (HGF)が知られている。今回我々は、胃癌における進展度評価として、HGF/c-Met 系発現の臨床的意義の策定を行った。【対象・方法】4 年間に外科的切除された胃癌症例より無作為に抽出した 110 例を対象に、術前血清 HGF を測定し病理学的諸因子について検討した。さらにその中から 50 例を無作為に抽出し、HGF 及びそのレセプターである c-Met の免疫組織染色を行い、各諸因子につき検討した。【結果】浸潤増殖様式（INF α～β vs. γ）において、進行度が高いものが、術前血清 HGF 値は高値を示した（p＜0.001）。血清 HGF 値と組織標本における HGF、c-Met の免疫染色との間に相関関係は認められなかった。免疫染色においては、c-Met とリンパ管侵襲（p=0.0416）、リンパ節転移(p=0.0184)、腫瘍径（p=0.0469)の間に有意な相関関係を認めた。また、c-Met 免疫染色において、Stage Ⅰ/Ⅱ症例が全体の 82%(41 例/50 例)を占めるにもかかわらず、overall survival に有意差を認めた(p=0.0342)。【考察・結論】浸潤増殖様式のみにおいて進行度が高いものほど術前血清 HGF が高値を示し、HGF が癌細胞の浸潤増殖に大きく関わると考えられ、胃癌における HGF/c-Met 系発現は、胃癌進展の予測因子となりうることが示唆された。

以上、この研究は基礎的臨床的に価値があり、優れた論文である。

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）［学校教育法学位規則第 8 条］